



2年生が施肥作業を行いました

5月26日(水)、桧木内川堤桜並木の施肥作業を、大曲支援学校せんぼく校中学部と協働で本校2年生が行いました。

仙北市役所観光文化スポーツ部文化財保護室の担当の方によると、今年で34回目の作業になるとのことでした。角館の春を象徴する桜の保護に、長年にわたり本校2年生が携わらせていただいていることに感謝しております。

本校生徒に、体験をとおして地域に貢献できたという思いや、ふるさとの宝を守るための一役を担うことができたという誇りを育み続けてくださっているこの行事に、「地域とともにある学校」として引き続き関わっていきたいと思います。

また、作業をしながら、植え替えをしないで桜並木を維持するために続けられてきた、「接ぎ木」という創造的な技術により、古い幹と新しい枝が結合している様子を至近距離で見られたことも、貴重な経験になったと思います。

知力を鍛える取組② (家庭学習の充実)

昨年度の客観的な諸調査で、本校生徒の課題の一つとして「家庭学習の習慣・学習時間」が明らかになっていました。

そこで、今年度は家庭での学習習慣づくりや適切な学習時間の確保に向けて、月曜日と水曜日の帰りの学活終了後10分間で、帰宅後の家庭学習の「めあて」を設定し、家庭学習ノートに記入するという取組を始め、継続しています。月・水曜日以外の日は、家庭で学習を始める前に「めあて」を記入することにしております。また、家庭学習の最後二行には、次のように「振り返り」を記入し、翌日の家庭学習につなげられるようにもしています。

- ◎ : その日の学習で新たに知ったこと、できるようになったこと
- ② : 疑問に思ったこと、まだ不安なので再び取り組もうと思ったこと、ミスが多いので課題なところ

学習時間としては、1年生は70分以上、2年生は80分以上、3年生は90分以上を目標にしています。

自分には今、何を学習することが必要なのかを自ら考え、決めて実践し、振り返りながら、必要であれば修正するということを繰り返し実践することで、主体的に学習に向かう習慣を身に付けさせたいと考えています。

ご家庭でも励ましの声掛けをお願いします。

他者への配慮 (新聞記事から)

「他者への配慮」という題で、次のような新聞記事を目にしましたので紹介します。

新型コロナウイルス感染拡大が県内でも続く。そんな中、県外から訪れる人や感染者らに対し配慮を欠く言動を見聞きすることがある。感染への不安が募っていることなのだろうが、考えさせられる。

県や秋田市は新規感染者を確認した際、プライバシーを保護するため、感染者を特定できるような情報の発表を控えている。これに対して感染者の居住地や所属先、行動歴の公表を求める人がいる。「感染を広げないために、もっと詳しい情報を公開すべきだ」というのがその主張だ。

大型連休中には、インターネット上で「県外ナンバー車を見掛けた。秋田に来るのはやめてほしい」「県外から来る人たちがコロナを広げている」といった書き込みがあった。

感染拡大に伴い、県は県境をまたぐ不要不急の移動を自粛するよう求めている。だからといって、詳しい事情も知らずに来県者を問題視したり、感染者のプライバシーを軽視したりするのは行き過ぎだ。

感染経験者やその関係者には誹謗中傷を受けて苦しんだ人がいる。感染していないのに、感染のうわさを流されて悩まされた人もいる。いずれも心に負った傷は深い。

県が広く意見を募る「県民の声」に今年3月、都内に住む県出身女性から投稿があった。その女性は1年以上帰省を控えていた。だが故郷の身内が亡くなりPCR検査で陰性を確認した上で帰省したという。

女性は死に目に会えなかった無念さをつづり、「『東京から来た』というだけで(中略)歓迎されていない雰囲気にとっても悲しくなりました」と書いていた。

誰でもいつ自分が感染者になるかわからない。不要不急ではない移動の理由ができるかもしれない。他者への配慮を忘れないようにしたい。

2021. 5. 12 秋田さきがけ

新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷については、No. 3でも触れましたが、新型コロナウイルスに関わらず、多くの他者と共生する社会では「**自分がされていやなことは、人にしない、言わない**」ことが、良好な関係を築き、維持していくために大切なことだと感じます。